

設楽ダム工事関連遺跡 範囲確認調査 笹平遺跡 川向東貝津遺跡 大名倉丸山遺跡

所在地 北設楽郡設楽町大字小松字笹平、大字川向東貝津、大字大名倉丸山

(笹平遺跡：北緯 35 度 06 分 45 秒 東経 137 度 34 分 05 秒)

調査理由 設楽ダム工事

調査期間 平成 18 年 5 月～ 6 月

調査面積 150 m²

担当者 宮腰健司・松田訓

調査の経過 調査は国土交通省設楽ダム工事事務所による設楽ダム工事に伴う範囲確認調査として、愛知県教育委員会の委託を受けて平成 18 年 5 月から 6 月にかけて実施された。調査では、県教育委員会の試掘調査の結果を受け、笹平遺跡 28 ヶ所、川向東貝津遺跡 21 ヶ所、大名倉丸山遺跡 26 ヶ所のテストトレンチを設定した。

立地と環境 笹平遺跡は標高約 386 m の境川左岸、川向東貝津遺跡は標高約 378 m の境川右岸、大名倉丸山遺跡は標高約 386 m の豊川（寒狭川）左岸の河岸段丘上に立地する。

調査の概要 笹平遺跡では、縄文土器等が多数採集されている現住居地部分の南側に 28 ヶ所のテストトレンチを設けた。その結果、明確な遺物包含層は確認されなかった。ただ北部 1/3 程では平坦地と南側に向かって急激に落ち込んでいる地形が認められた。また北部トレンチでは近世以降と考えられる落ち込みが検出され、切目石錘・土師質土器片・近世陶器片が出土している。また周辺では縄文土器片を採集することができた。南部の T.T.3 では石鏃 1 点を採集している。

川向東貝津遺跡では平坦面の北部・東部を中心に 21 ヶ所のテストトレンチを設けた。その結果北部の斜面端に沿ってわずかに平坦地が認められたが、遺物包含層は確認されなかった。また耕作や植林による地形の改変も認められた。県教育委員会の試掘で遺物包含層を確認した南西部において縄文土器片を採集している。

大名倉丸山遺跡では平坦面の西部に 25 ヶ所、やや離れた東部に 1 ヶ所のテストトレンチを設けた。その結果明確な遺物包含層は確認されなかった。ただ西部調査地点の東側と西側で平坦面が認められ、県教育委員会の試掘で遺物包含層を確認した中央部北側では鉄滓を採集した。
(宮腰健司)



調査地点 (1/2.5万「田口」)



笹平遺跡試掘調査